

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B））

研究期間：2019～2022

課題番号：19KK0031

研究課題名（和文）アフリカの農村資源管理と国家 ガーナとルワンダの比較研究

研究課題名（英文）Rural resource management and the state in Africa: A comparative analysis of Ghana and Rwanda

研究代表者

武内 進一（Takeuchi, Shinichi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：60450459

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,100,000円

研究成果の概要（和文）：ルワンダとガーナの農村変容について比較し、それを主導するアクターとして、ルワンダでは政権与党の「ルワンダ愛国戦線」（RPF）、ガーナでは伝統的チーフに着目した。ルワンダでは、党＝国家体制の下、急速な農業の商品化と生存維持経済の解体が進行したが、ガーナではより長期間にわたる商品化過程のなかでチーフが本源的蓄積の促進者の役割を負ったことなど、両国の農村変容の特徴を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ルワンダとガーナという対照的な二カ国を比較し、アフリカで急速に進む農村変容の実態を、主導するアクターの違いを踏まえて描き出した。農村変容を国家と関連付けて分析し、従来別々に進められる傾向があったミクロとマクロの研究を接続したところに、本研究の重要な学術的意義がある。英文書籍出版やガーナ大学との共同セミナーを通じて、研究成果普及や学術ネットワーク構築にも成果を上げた。

研究成果の概要（英文）：This research aimed at comparing rural changes in Rwanda and Ghana, and focuses the role of the ruling party in Rwanda and the traditional chiefs in Ghana, respectively. This three-year project illustrated two different paths to capitalistic rural changes: in Rwanda, the rapid and drastic agricultural commercialization and the dismantlement of subsistence economy have been observed under the initiative of the party-state regime; in Ghana, the traditional chiefs have played an important role as promoters of the primitive accumulation in the much longer process of commercialization.

研究分野：地域研究

キーワード：アフリカ 伝統的権威 農村 政治体制 土地 政策 国家 政党

1. 研究開始当初の背景

土地や水など農村における資源の管理をめぐる問題は、理論的にも実践的にもきわめて重要であり、数多くの研究蓄積が存在する (Ostrom 1990)。アフリカ研究においても、この問題に関しては主として 2 つの側面から注目されてきた。一つは農村の持続的開発に関する問題関心に由来し、経済成長や人口増加等に起因する資源制約の顕在化が背景にある。例えば、多くのアフリカ諸国で近年土地の商品化と囲い込みが劇的に進行しているが、この関心からは、急速な土地商品化現象と同じ時期に進められた土地法改革との関係が問われる (Alden-Willy 2011)。もう一つは国家建設をめぐる関心からのもので、従来伝統的権威 (チーフ) が実質的な役割を担ってきたアフリカ農村の資源管理に国家がいかに関与するようになったかに着目する (Lund 2009)。アフリカの国家は脆弱だと一括されがちだが、その内実は多様であり、近年中央集権的な統治制度が強化されつつあるとの指摘もある (Dickovick & Wunsch eds. 2014)。これらの研究は、農村部における資源管理の分析から、アフリカの国家が実効的な領域支配を広げつつあるのかを議論してきた。

農村資源管理の性格は、ローカルな社会構造を反映すると同時に、マクロな政治秩序や政策介入の影響を大きく受ける。ミクロレベルとマクロレベルの統治システムが重なるところで現出する事象であるだけに、農村資源管理の分析は、農業や農村開発に関わる政策的実践に不可欠であるばかりでなく、国家建設をめぐる理論的問題の解明に重要な貢献をなす。本研究は、国家社会関係への政治学的関心をベースとしつつ、これら 2 つの研究動向を踏まえて構想された。

従来の研究において、農村資源管理の特質がマクロな政治秩序の性格と密接に関係していること、また伝統的権威の役割が国によって大きく異なり、それが農村資源管理の性格のみならず、マクロな政治秩序にも影響を与えていることが明らかにされてきた (Boone 2014、武内編 2017)。この分野ではフィールド調査に基づく成果が数多く生み出されてきたが、国家側すなわち政策執行側がどのような意図をもって政策を執行し、それが農村社会でいかなる反応を生んだのかといった点に着目した、国家と社会を結びつける議論は依然として乏しい状況だった。

2. 研究の目的

今日に至るまで、アフリカ農村における資源の利用や配分には、伝統的チーフや拡大家族といった国家権力以外の権威が大きな影響力を与えてきた。理論的に言えば、所有権とは「人と物との関係の側面において現れる人間と人間との関係」(川島 1987) であり、近代国家による統治の成立をもって私的所有権が確立される。しかし、アフリカではこうした形で私的所有権が成立せず、例えば農村の土地をめぐる権利関係においては、国家よりも伝統的権威 (チーフ) が強い影響力を行使することが多かった。

1990 年代後半以降、アフリカ諸国が高成長を遂げ、ドナーの支援の下で法制度改革に着手するなかで、事態は急速に変化しつつある。土地を例にとれば、ルワンダのように原則として全ての土地所有者に権利証書が公布され、私的所有権成立の制度的基盤が整えられた国もある。その他の国々でも、民間企業や都市居住者による土地囲い込みが進んでいる。このようにアフリカ農村は急速に変わりつつあるが、そこにおける資源管理の実態や課題については、十分に解明されていない。

こうした学術的背景の下で、本研究の目的はまずもって、近年のアフリカにおける国家社会関係の変容を明らかにすることにある。この目的に対して、本研究は農村資源管理の分析を通じてアプローチする。すなわち、具体的には、今日のアフリカ農村における資源管理は、国家社会関係をどのように反映しているか、既存の国家社会関係の下で、農村資源管理はどのような課題に直面しているか、という 2 つの問いを通じて、上記の目的にアプローチする。

3. 研究の方法

本研究の目的は、農村資源管理の分析を通じて国家社会関係の特徴を明らかにすることだが、具体的な方法としては、ルワンダとガーナを対象として、土地政策と食糧作物生産振興政策を取り上げて比較した。ルワンダでは、2004 年の土地政策において耕作者の権利安定化が打ち出された後、土地登記が全土で実施され、土地所有者に権利証書が配布された。一方ガーナでは、1999 年の土地政策でやはり耕作者の権利安定化が打ち出されたものの、現在でも土地登記は首都アクラなどごく一部地域にとどまり、農村の土地は基本的にチーフの権威下にある。またルワンダでは、2000 年代末頃から、改良種子と化学肥料の投入を中心とする食糧作物生産振興政策が導入された。これによって主食作物生産は顕著に増大したが、特定作物栽培を強制する政策への批判も強い (Huggins 2017)。ガーナにおいては、こうしたトップダウンの食糧作物生産振興政策は取られなかった。

両国における農村資源管理のこうした差異については、農村社会構造とマクロ政治体制から一応の説明が可能である。すなわち、ルワンダにおいて土地や食糧作物生産に積極的な介入政策がとられた背景には、過剰な農村人口 (人口密度 533 人/km² 2020 年世銀統計による) と土地不足に対して政府が抱いた危機感があり、また強権的な政治体制の下で農村社会へのきめ細か

な介入が可能となった(武内 2017)。一方ガーナでは、農村部におけるチーフの影響力が強大で人口密度も相対的に低い(人口密度 141 人/km²)うえに、自由度の高い民主主義体制が存立しているため、介入主義的な資源管理政策がとられなかった。

以上は、両国の差異についての説明として概ね妥当だが、そうした差異が今後も変わらず継続するかはわからない。ルワンダでは、従来の介入主義的政策に対して、農民に対する強制や化学肥料の多投入が社会的、環境的に持続可能ではないとの指摘がある。一方、ガーナでは土地所有に対するチーフの強大な影響力が、耕作者の土地権利を不安定化させているとの批判があるし、農村における土地不足も顕在化しつつある。両国とも、従来の政策に対する見直しが進む可能性が高い。農村資源管理の実態面での変化や政策上の変化は、国家社会関係にも影響を与えることになる。

本研究ではこの点に注目し、両国の農村資源管理と国家社会関係の変化をフィールドワークによって比較検討する予定であった。しかし、コロナ禍のため、フィールドワークを実施することは断念せざるを得なかった。代替策として、日本、ガーナ、ルワンダでそれぞれ文献研究を進め、研究期間最終段階の 2023 年 3 月にガーナで研究集会を開催し、成果発表と比較検討を行った。この集会では、カウンターパートであるガーナ大学アフリカ研究所、プロテスタント人文社会科学大学を中心に約 40 人が研究報告を行った。

4. 研究成果

本研究プロジェクト遂行期間における成果としては、英文書籍 1 冊 (Shinichi Takeuchi ed. *African Land Reform Under Economic Liberalisation - States, Chiefs, and Rural Communities*. Singapore: Springer, 2021.) を刊行したほか、関連業績を *ASC-TUFS Working Papers 2022, 2023* に掲載した。そして、2023 年 3 月 6, 7 日に上述の共同セミナー (UG – TUFS Joint Seminar on State and Rural Resource Management in Africa) を開催した。これらの研究活動を通じて、次の点が明らかになった。

1. 両国の主要なアクターに関しては、その対照性が改めて確認された。ガーナにおけるチーフの重要性、ルワンダにおける政権与党 (ルワンダ愛国戦線: RPF) の重要性は、本研究プロジェクト開始以前から想定していたことだが、両国の特徴を顕著に形作る要因であることがはっきりした。ただし、チーフと政党は同じ水準で比較できない。ルワンダの政権与党は政策を立案し、人々にその遂行を強制するが、ガーナのチーフは政策立案に関与しない。チーフは自分の支配下にある特定の人々に強い影響力 (動員力) を持ち、政策の遂行を促進したり、阻害することができる。ただ、人々から一定の代表性を託されているとはいえ、実際には個人的利得に基づいて行動する場合も多く、政治家など政治エリートとの「政治的同盟関係」(political alliance) が指摘されている (Amanor 2021)。

2. 一方、主要アクターと国家社会関係との関係については、研究開始当初に想定していたほど対照性が確認されなかった。ルワンダに関して言えば、RPF はルワンダ国家と一体化しており、ほとんど国家権力として人々の生活に介入する。そうした介入は、RPF が政権を握った 1994 年以降、ルワンダ社会を大きく変容させてきた。一方ガーナのチーフは、理論的には国家に対して中立だが、実態としては、先に指摘したとおり、政治エリートと「政治的同盟関係」を結んで人々の生活に大きな影響を与えてきた。例えば、チーフが形式的な所有権を保有する土地について、住民の了承なく民間企業に売却するといった行動が上げられる。それは、政策を通じた変化の推進者というより、本源的蓄積の推進者としての役割と言えよう。そして、ルワンダで推進された政策が、改良品種や肥料の普及、土壌改良を通じて農業生産を拡大することを意図し、その過程で急速に農村の生存維持経済が解体していったことを考えれば、ルワンダの政党とガーナのチーフの機能については共通点も多い。

3. 権威主義体制下のルワンダにおいては、RPF の主導によって、急速に農業の商品化が進められた。それは土地制度改革を中心とした急激なものであり、短期間のうちに農村は著しい変容を遂げた。これは、ルワンダの党 = 国家体制によって可能となったものである。一方、ガーナでは農村の変化はずっと緩慢である。しかし、方向性としては、ガーナもやはりルワンダと同様に農業の商品化が進んでいる。そもそもガーナでは、19 世紀末に遡るココア導入以降、より長期にわたって農業の商品化が進んできた。ルワンダのように急速な、上からの変化ではないものの、チーフを一つの軸としながら、農村の資本主義的変容が進んでいると言える。

(参考文献)

Alden Wily, L. 2011. "The law is to blame: the vulnerable status of common property rights in sub-Saharan Africa." *Development and Change* 42(3), 733-757.

Amanor, Kojo 2021. "Land Administration, Chiefs, and Governance in Ghana". In S. Takeuchi ed., *African Land Reform Under Economic Liberalisation - States, Chiefs, and Rural*

- Communities*. Singapore: Springer, pp.21-39.
- Boone, C. 2014. *Property and Political Order in Africa: Land Rights and the Structure of Politics*. Cambridge University Press.
- Dickovick, J.T. & J.S. Wunsch eds. 2014. *Decentralization in Africa: The Paradox of State Strength*. Lynne Rienner Publishers.
- Huggins, C. 2017. *Agricultural Reform in Rwanda: Authoritarianism, Markets and Zones of Governance*. Zed Books.
- 川島武宜 1987 . 『新版 所有権法の理論』 岩波書店 .
- Lund, C. 2009. *Local Politics and the Dynamics of Property in Africa*. Cambridge University Press
- Ostrom, E. 1990. *Governing the Commons: The Evolution of Institutions for Collective Action*. Cambridge University Press.
- 武内進一編 2017 . 『現代アフリカの土地と権力』 アジア経済研究所 .
- Takeuchi, Shinichi ed. 2017. *African Land Reform Under Economic Liberalisation - States, Chiefs, and Rural Communities*. Singapore: Springer,

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 武内進一	4. 巻 707
2. 論文標題 アフリカの平和に向けた日本の政策と実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Abdulai Adams Aziz, Kusadokoro Motoi, Chitose Atsushi, Yamada Masaaki	4. 巻 58
2. 論文標題 The Impact of Elite Farmers on Cocoa Pests and Diseases in Ghana and Cote d'Ivoire	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Rural Problems	6. 最初と最後の頁 111～121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7310/arfe.58.111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Policy Concepts and Normative Rationales in Japan's Foreign Aid: Human Security, TICAD, and Free and Open Indo-Pacific	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Development Cooperation of Japan and South Korea: New Strategies for an Uncertain World (H-J Kwon et al. eds.)	6. 最初と最後の頁 3～22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武内進一	4. 巻 -
2. 論文標題 植民地主義の見直し ヨーロッパとアフリカ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ』（武内・中山編）	6. 最初と最後の頁 344～363
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 巻 2
2. 論文標題 Japan's Peace Policy in Africa: Discussion towards TICAD VIII	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ASC-TUFS Working Papers	6. 最初と最後の頁 23～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51062/ascwp.2.0_23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Shinichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Introduction: Drastic Rural Changes in the Age of Land Reform	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities (Takeuchi ed.)	6. 最初と最後の頁 1～20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-16-4725-3_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Shinichi, Marara Jean	4. 巻 -
2. 論文標題 Land Law Reform and Complex State-Building Process in Rwanda	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Land Reform Under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities (Takeuchi ed.)	6. 最初と最後の頁 137～152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-16-4725-3_7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hitomi Kirikoshi	4. 巻 2
2. 論文標題 The Trans-region Movement of Seasonal Labour in Ghana: Settlement Formation of Populations in the Upper West Region and Trade Network	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ASC-TUFS Working Papers	6. 最初と最後の頁 179～204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51062/ascwp.2.0_179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桐越仁美	4. 巻 54
2. 論文標題 カーナ国内における季節労働の実態：アッパー・ウェスト州からの州外移住に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国土館人文学	6. 最初と最後の頁 41～64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 (65)4
2. 論文標題 近年のアフリカ政治経済	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 64～70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 (65)11
2. 論文標題 ルワンダ 紛争後の急成長とその課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 72～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 204
2. 論文標題 第六章 日本の国際政治におけるアフリカ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 109～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 200
2. 論文標題 アフリカ研究者の紛争研究 日本の国際政治学と紛争研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 23～36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 8
2. 論文標題 コンゴ民主共和国の歴史と紛争 難民発生要因の見取り図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 難民研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 16～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 65(4)
2. 論文標題 近年のアフリカ政治経済	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 64～70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 56
2. 論文標題 「ルワンダの奇跡」後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 50～55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kirikoshi, Hitomi	4. 巻 58
2. 論文標題 Tree Shape Classification and Land Management by Hausa Farmers in Sahel Region of Southern Niger	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary issue	6. 最初と最後の頁 55～67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/244119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 African states, rural resource management, and development: Implications of Rwanda's developmentalism
3. 学会等名 University of Ghana, Tokyo University of Foreign Studies Joint Seminar on State and Rural Resource Management in Africa. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 International Relations and African Studies in Japan: With special focus on historical and institutional factors
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 アフリカ研究からブラック・ライヴズ・マターを考える 地域研究への示唆
3. 学会等名 JCAS年次総会一般公開シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 今日のアフリカにおける土地紛争の背後にあるもの
3. 学会等名 日本平和学会2021年度秋季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Policy Concepts and Normative Rationales in Japan's Foreign Aid Human Security, TICAD, and Free and Open Indo-Pacific
3. 学会等名 国際開発学会第32回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Adams Aziz Abdulai1, Motoi Kusadokoro, Atsushi Chitose, and Masaaki Yamada
2. 発表標題 The Impact of Elite Farmers on Cocoa Pests and Diseases in Ghana and Cote d'Ivoire
3. 学会等名 71st Annual Meeting of the Association of Regional Agriculture and Forestry Economics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sylvia Kpabitey, Atsushi Chitose, and Motoi Kusadokoro
2. 発表標題 Provision of Loan and Credit by Buyers under Non-price Competition: Cocoa Beans Market in Ghana
3. 学会等名 71st Annual Meeting of the Association of Regional Agriculture and Forestry Economics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Japan's Peace Policy for Africa: Discussion Towards TICAD VIII
3. 学会等名 ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桐越仁美・牛久晴香
2. 発表標題 北から南への流れを捉える ガーナの2010年人口センサスを用いて
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hitomi Kirikoshi
2. 発表標題 The Trans-Region Movement of Seasonal Labour in Ghana: Settlement Formation of Populations in the Upper West Region and Trade Network
3. 学会等名 ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桐越仁美
2. 発表標題 Cleaning the City, Greening the Land: Sustainable City and Land Management in Sahel, West Africa.
3. 学会等名 International Conference on Geographical Science for Resilient Communities, Ecosystems and Livelihoods under Global Environmental Change (GORILLA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桐越仁美
2. 発表標題 西アフリカのムスリム商人による中国商人への商業ネットワーク拡大過程に関する考察
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi & Jean Marara
2. 発表標題 Land Law Reform and State-building in Rwanda
3. 学会等名 PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development. Huye, Rwanda
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Rwanda's land law reform: Its implications for the landscape change
3. 学会等名 Global Landscape Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Consequences of the land tenure reform: The case of Rwanda.
3. 学会等名 Consequences of land tenure reform in Africa (94th KUASS, 12th KU-TUFS Seminar)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桐越仁美
2. 発表標題 西アフリカ商人と域外商人の接続 現代ガーナにおける商人のキャリア形成を事例に
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 203
3. 書名 African Land Reform Under Economic Liberalisation - States, Chiefs, and Rural Communities	

1. 著者名 武内進一・中山智香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>UG-TUFS共同セミナー2023（ガーナ大学と東京外国語大学の共同セミナー） http://www.tufs.ac.jp/asc/events/others/UG-TUFSSeminar2023.html</p> <p>書籍刊行記念セミナー http://www.tufs.ac.jp/asc/events/ascseminar/210907ASCSeinar61.html</p> <p>ASC-TUFS創設5周年記念国際シンポジウム http://www.tufs.ac.jp/asc/events/others/2111035thIntISympo.html</p> <p>アフリカの農村資源管理と国家 ガーナとルワンダの比較研究 http://www.tufs.ac.jp/asc/activities/project/19KK0031.html</p> <p>International Seminar in Rwanda http://www.tufs.ac.jp/asc/english/activities//2002PIASS-TUFSSeminarReport.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	千年 篤 (Chitose Atsushi) (10307233)	東京農工大学・(連合)農学研究科(研究院)・教授 (12605)	
研究分担者	桐越 仁美 (Kirikoshi Hitomi) (70793157)	国士舘大学・文学部・講師 (32616)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Book Launch Seminar: African Land Reform under Economic Liberalisation: States, Chiefs, and Rural Communities (武内進一編、Springer)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 PIASS-TUFS Joint Seminar on Resource Management and Development	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Global Landscape Forum	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Consequences of land tenure reform in Africa	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 University of Ghana, Tokyo University of Foreign Studies Joint Seminar on State and Rural Resource Management in Africa.	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関